



倫敦の巡查を中心として

幹事 内務省參事官 佐上信一

佛國から英國に到着すると、巡查の様子が大分變つて居る。私は倫敦に約六箇月滞在して居たので、英國の巡查に接近するの機會が少なくなかつた。殊に倫敦の巡查は、大男を以て鳴つて居て、其の採用資格が、身長五呎八吋以上で、年齢は二十一歳より二十八歳迄としてあるから、交通の取締をしても、群衆の取締をしても、首から上だけは群を抜いて居る。私自身は、日本人の中では、さう身長の高い方ではないが、倫敦の巡查と差向いて話をして居ると、まるで見上げるやうな男が多い。倫敦では巡查と民衆とが、極めて接近して居つて、日本で子供を威かすのに、『お巡りさんが來た』と云つて、恐ひものにして居るのに反して、向ふでは巡查は、皆んなの敬愛する伯父さんになつて居る。倫敦の巡查は、身體が大きく且つ能く肥えて居るので、一見佛國の巡查のイラ／＼したのに比して、ゆつたりとして一層親しみ易い。倫敦の巡查は、自ら進んでは一寸も世話を焼かないが、此方から頼むと随分親切に世話を焼く。それで此方で有難

う！と禮を云ふと向からも有難う！と云ふ。

二

倫敦の巡查の特長は、何と何つても、交通整理の手際のよいことであつて、倫敦も今日では自動車が非常に殖えた爲め、其の交通の状勢は、大分昔とは變つて來たけれども、尙ほ且つ倫敦の巡查は交通整理が巧妙である。英國では「腕は法律なり」と云ふ法諺がある。それは巡查が、交通の整理を行ふのに倫敦の霧の中で、其の一舉手一投足を知らしむるが爲に、便利だと云ふことで、何れも白の手袋を用ゐて居るが、其の巡查の手の上げ下げで、人馬諸車が一進一退して、全く巡查の腕が法律と同様の力があると云ふことを云つたのである。倫敦では交通の整理に従事して居る巡查の数が比較的に少ない。我國のやうに一個所に數人の巡查が居て、之が總掛りで交通の整理をやつて居ると云ふやうなことは珍しい現象で、倫敦のオックスホード街の交叉點の如きは、可なり交通の頻繁な個所であるけれども、此の地點でも二人の巡查で充分交通整理の目的は達して居る。英國に「赤ん坊陛下」と題する繪があるが、それは倫敦のチャリングクロスに於ける巡查の交通整理の光景を示したもので、倫敦のチャリングクロスと云へば、恰かも東京の銀座尾張町か須田町と云つたやうな所で、其の個所を一人の乳母が、片手に風車を持つた三歳位の子供を連れ、造花を盛つた花籠を携え、蝙蝠傘を差しかけて悠々と歩を移して居る。傍には巡查が高く片手を上げて、群衆を制して居て、車も馬も皆巡查の片手でキチツトと止まつて居る。恰かも赤ん坊陛下の行列があるやうに、交通の整理が上手に行つて居ることを示したものである。

三

倫敦では夫れ程に交通の整理が巧く行つて居るが、今や市内に於ける自動車の數は、二十萬臺を算するに至り、流石に巧妙を以て鳴れる倫敦巡查の交通整理も、全く其の極度に達し、私の倫敦滞在中には、甚だしい日になると、市内を通じて自動車に起因して、二百件以上も交通事故が発生すると云ふ有様で、世論は結局に於て道路の幅員を廣くしなければならぬと云ふことになつて來た。其の當時デーリーメール社では、新聞の附録に傷害保険の申込用紙を附し、讀者にして之に依りて保険の申込を爲して置けば、其の申込人が、市内交通事故の爲め死傷するやうなことがあれば、同社に於てそれに相當した保険金を支拂ふと云ふ仕組になつて居るので、大に世人の歓迎を受けた程であつた。

四

倫敦では、道路を横斷せんとするにしても、車馬の往來が恰かも織るが如くであるから、迂つかりすると自動車に轢かれたり、馬に踏まれたりする。それで一思ひに巡查の立つて居る所に駆け付ければ、車馬は皆巡查を除けて通るから、比較的完全である。總體に於て、倫敦の道路は路面が固くなつて居るから、霧や雨の降る日には、動もすれば滑りさうになる。さうすると傍に立つて居る交通巡查が、手を延ばして身體を支えて呉れる。又巡查に道を聞いても、肩をたかかんばかりにして、親切に教えて呉れる。誠によそ目にも親愛の情が溢るゝばかりで、我國から渡來した旅客は、必ず倫敦の巡查には感心する。日本人は

西洋では巡查でもチップを取るさうであるから、この様に親切を盡して呉れた際は、少し位金でも掴ましたら宜からうと云ふ人もあるやうであるが、此の如き仕打ちは、強いて向ふの巡查を汚すものであつて、決して向ではそんな考で親切を盡すのではない。

五

私が英國に滞在中、千九百二十一年の冬であつたが、英國を通じて失業者の数が非常に殖えた。戦争の終了後に於て、戰場より歸還した兵士や、軍需品製造工場から解雇せられた職工等は、何等職業を得ること能はずして、其の日々の生活に困つて來て、倫敦の市内丈でも其の數二十萬以上を算し、之が隊伍を組んで、倫敦の目貫の町を練り歩くのであつた。茲に挿話として話して置きたいことは、英國では、何等自分^{サービス}が勞力を提供することなくして、他人から金錢其の他の財物を求むることは法律で嚴禁されてある。英國は乞食でも他人から金錢を貰ふには、必ず何かサービスをしなければならぬ。何もしないで他人から金錢を貰つたものは、乞食罪として嚴重に處分せられる。倫敦の市中を歩くと、男でも女でも、人から金錢を貰ふやうな連中は、何かサービスをするになつて居る。所謂鋪道^{パヴェメント}畫家と稱へらるゝもの^{の如きも、}固より物貰ひの一種ではあるが、色チヨークで歩道の上にジョツフル將軍の像とか、プリンスラプウール殿下の似顔とか、ポンチ繪とか、景色畫とかを、色彩も美事に畫いて、其のあたりを歩行する人々から見料として若干の金を求めて居る。大抵見料は一片^{ペンシニー}位で、其の側に置いてある帽子の中に投げ込むのであるが、畫家は夕方になると、之を集めて家路に急いで、之を暖かいスープに代える。金をやるまいと思ふ

人は、顔をそむけて繪を見ないやうにして通つて行く。又英國で馬車や自動車を雇つて居ると、側から子供が飛んで來て、戸を開けて直立してゐる。戸の開け賃を貰ひたいからである。盲目の御婆さんや癡兵などが、燐寸や靴の紐を手につつて、燐寸を買つて下さい靴の紐を買つて下さいと云ふ。之は物貰ひが、何もしないで他人から金錢を貰ふと罰せらるゝから、それを恐れて燐寸や靴の紐を賣るのである。其の事情を知らぬ人が、通りを歩いて燐寸がないから、是は宜かつたと二片^{ツイブス}を投じて燐寸を買ふ。實は此の御婆さんには、金をやつても燐寸を取つてはならぬ、それは商賣道具を取り上げる結果になるからだと云ふ滑稽な實話もある。此の如き次第で、英國では何等のサービスなしには、他人から金を貰ふとは禁ぜられてゐる。

六

然るに前に述べたやうに、千九百二十一年の冬の英國には、多數の失業者があつたが、殊に倫敦に居るものは、早急に職業を得ることが困難であるから、當分の間他人から金錢を貰ふことを許して呉れなければ、飯が食へぬと云ふので、倫敦のオックスホード街や、ボンド街と稱して、恰かも東京の日本橋や銀座の如き色々な贅澤品を賣る通りに列を爲して、クリスマス^の買物から歸る紳士や淑女に叩頭して、應分の寄捨を頼んで見やうと云ふ計畫を立てた。英國では前述の如く、何等のサービスなく、他人から金錢を求むることは、乞食罪を構成することゝなるので、失業者の此の計畫は、倫敦の警察委員會では大分問題となつた。法規を盾に絶対に此の計畫を阻止すれば、彼等失業者は或はクリスマス^が來ても、其の支度も出來ぬと云ふ様な、極めて氣の毒な結果を見るとなるかも知れないと云ふので、警察委員會では、種々協議の結果、警察官の指揮監督の下に、隊伍を組んで一般民衆から金を集めるとは、之を認めると云ふことに決したのである。

七

其の結果として、彼等失業者は、ハイドパーク公園で、勢揃をして、百人を一隊とし、行列を始めた。御苦勞にも巡査は騎馬で先頭に二人後尾に二人宛之に附く、其の隊伍は倫敦の町を、殆んど數え切れぬ位に續いた、全く巡査附きの物貰ひである。而して各隊伍の先頭には「我々は勝利の分け前を要求するの権利がある」と大書した旗を立て、樂隊をしてマーチを奏せしめながら、五六人のものは、各々手に錢箱を持つて居る。私も二三人の失業者に捉つて「日本の紳士よ希くば些少の志を恵め」と云はれたので、若干の金を其の錢箱の中に投入れた、此の如くにして集め得た金は、之を一週間目に計算して頭割りに分配する。私は失業者の此の種の運動を、種々の意味に於て眺めたのであるが、特に是等失業者の隊伍を護衛する巡査の態度に興味を感じた。巡査が隊伍を護衛して行くのに、失業者を憐れむやうな顔付をして居つたか。又は之を輕蔑するやうな顔付をして居つたか。或は彼等失業者の運動も、亦一の商賣であると云ふやうな平氣な顔付をして居つたか。私は其の騎馬巡査の顔附や態度が見たいので、倫敦中の方々を廻つて之を觀察した。然るに何れの巡査も、皆申合せたやうに、晴やかな嬉しそふな顔付をして、ニコニコと隊伍に隨いて行つて居る。何故に巡査が快活そふに樂隊と調子を合せながら、口笛を吹いて失業者の隊伍を護衛して居たか。私には其の理由は分らなかつたが、それが倫敦の巡査の市民に敬愛せらるゝ一の原因になつて居るとは争ふべからざる事實であらう。倫敦の巡査が其の愉快さうな顔付をして金貰ひの隊伍を率ゐながら歩いて居ると云ふ心理状態は、今に私にも了解できぬ事柄である。私は少しそれを考へて見たいと思つて居る。(完)